Machine Translated by Google

"the whole truth, and nothing but the truth about Jesus"

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

デイリージーザスニュース#027

イエスの初期のユダヤ教宣教

イエスの宣教の性質と結果

ルカ3.23A;ヨハネ1.14,10-13,16-18

=-=

さて、イエス様は宣教を始めたとき、およそ30歳でした。

14 Jみことばなる神は人となり、神の宮として住まわれ、私たちは、神の独り子であるイエスにのみ与えられた栄光の輝きを不思議に思い、恵みと真理に輝いていた。

10すべての人を照らすまことの光である彼が世に来られました。
11 イエスは、わたしたちの所有物に来られたのに、この所有物はイエスを受け入れなかった。12 しかし、イエスを受け入れた
人々、すなわち、イエスの名を信じた人々には、神の子となる恵みをお与えになった。13 彼らは、血統によって生まれた子でも、人間の選
択によって生まれた子でも、夫の意志によって生まれた子でもなく、神ご自身によって生まれた子である。

16 わたしたちは皆、彼の神性の豊かさから恵みを受け、また、恵みが絶えず新たに注がれています。17 律法はモー
セを通して与えられましたが、限りない恵みと真理の真実とは、イエス•キリストを通してもたらされたのです。

18 イエス以前には、だれも肉眼で神を完全に見たことがありません。ただ、神であり、父と密接な関係にある独り子が、
神を完全に知らせたのです。

=-=

注: 「混合テキスト」では、ソース福音書の識別に上付き文字を使用します。マタイ = MT、マルコ = M、ルカ = L、ヨハネ = J
、使徒行伝 = A。この「上付き文字 ID」は引用テキストの先頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別
します。さらに、赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。

	コンテキストダイジェスト
位置	ユダヤ
時間	西暦30年1月
イエスの生涯の段階	ステージ III: ユダヤ教初期の宣教
第6章	イエスの宣教の始まり
セクション #027	はじめに: イエスの宣教の性質と結果

詳しくはこちら

Copyright©2012byJohnWright.Allrightsreserved.

Machine Translated by Google

今日の朗読では、ついにイエスの宣教の物語が始まります。この朗読は、イエスが宣教を始めたとき、およそ30歳であったというルカの歴史的観察から始まります。これはなぜ重要なのでしょうか。
この質問には主に2つの答えがあります。

1)旧約聖書でイエスの「型」（代表例）であった二人の重要な人物は、宣教を始めたとき30歳でした。ダビデ王は30歳で王になりました。ヨセフは30歳でファラオの右腕に昇進しました。この二人はそれぞれ異なる方法でイエスを予表していました。

（２）レビ人の祭司たちは３０歳で奉仕を始めました。イエスはレビの位ではなく、メルキゼデクの位で大祭司となりましたが（詩篇１１０章４節、ヘブライ人への手紙 7章２１節）、この年齢で働きを始めることによってイエスが祭司職の律法を成就したことは印象的です。

私たちは今日、イエスを30歳の比較的若い男性だと考えています。1世紀は平均寿命が短かったため、同世代の人々からは人生の後半にいるとみなされていました。彼らは若くして結婚したため、彼と同年代の男性の多くはすでに祖父でした。中には30代後半で曾祖父になっている人もいました。これは、聖書と比べて私たちの文化が大きく変わった領域です。

今日の朗読は、イエスの宣教の性質とその結果の両方についての概要を私たちに与えてくれます。ヨハネは4人の福音書記者の中で全体像を考えた人だったので、彼は福音書の冒頭で、その後に続くことの根拠となる主要な前提を明確に述べました。
それが彼がこのテキストで行ったことです。

イエスがメシアとして来られたのは、彼の受肉を通じたコミュニケーションでした。ヨハネは旧約聖書の幕屋と神殿の背景を使ってこれを説明しました。使徒は旧約聖書の詩篇 78 章 60 節で、幕屋を説明するギリシャ語の句を使いました。 「十人の男が人々の間に建てられた」。イエスはヨハネ 2 章 19 節で、自分自身を「神の神殿」と呼びました。幕屋と神殿が、神が宇宙を満たす彼の存在を明らかにするために選んだ場所であったように、御子である神は、三位一体の目に見えない霊的な性質の目に見える啓示として、御子の手と血の体に住むことを選ばれました。

ヨハネはこの箇所を、同じ真理をもう一度述べて終えています。 「イエス以前には、だれも肉眼で神を完全に見た者はいない。ただ、神であり、父と密接な関係にある唯一の子だけが、神を完全に知らせたのだ。」父は過去に、ただ預言者を遣わして代弁させたのではなく、御子を人間の肉体に遣わして御言葉を遣わした。これは、永遠に再現されることのない、まったくユニークな伝達方法である。この真理は、イエスがメシアとして語ったことの根底にある。

旧約聖書の幕屋が昼は光の雲、夜は火の雲で神の存在を明らかにしたように、私たちはイエスの中から受肉した国家の啓示の光が太陽のように輝いているのを見ます。いずれにせよ、イエスを見るということは、神をその人間性の中に見るということです。そして、この神の啓示は主に二つの方法で表現されました。それは、限りなく、わきあがり、あふれ出る恵みと、真理です（1.14B）。

神は愛であるから、無条件に、また限りなく与えてくださる。これが恵みであり、値しない、限りない恩恵である。神は光であるから、真実を語り、啓示し、行動する。そして、イエスにおいて神が恵みと真実を放射したから、イエスを信じる者は皆、即座に神の豊かさの相続人となる（1.16-17）。ちょっと立ち止まって、そのことについて考えてみてください。

これまでの本文では、イエスの奉仕の性質、すなわち受肉による国家について説明しました。ヨハネはまた、10-13節でイエスの再臨の結果についても語っています。

受肉したイエスに対する可能な応答は二つしかありません。彼を信じるか、信じないかです。どちらも、私たちの意志を固く決意させる、人間全体の決断です。イエスを信じないという決断は、イエスが主張する人、つまり私たちの主であり神であることを認めない選択です。

Copyright©2012byJohnWright.Allrightsreserved.

Machine Translated by Google

このテキストでは、ヨハネは人々がイエスを信じないときに何が起こるかを説明していません。これは物語の過程で明らかになります。その結果、永遠の破滅が起こります。

イエスは恵みと真理に満ちているため、イエスを　彼の名を　信じることによって、霊的に生まれ、神の養子となることから始まる、神の豊かさを受けるのです。イエスは父の唯一無二の永遠の子であり、受肉によって神の性質に人間性を加えられました。私たちは罪深い人間ですが、神の娘としてイエスの共同相続人となる恩恵と資格という恵まれた地位を与えられています。私たちは神によって、イエスと聖霊が永遠に享受してきた父との同じ交わりの中に生まれています。

イエスは、これまで生きてきたすべての人に、イエスを信じて主、神として受け入れるか、それともイエスを拒絶して自分自身を主、神とするか、決断するよう呼びかけるために来られました。ここでイエスは、その宣教活動を通して、ご自身を神聖な「救い主」として明らかに示されたので、不信仰によってイエスを拒絶することは、真理を拒絶することでもあります。私たちは、イエスの宣教活動の展開の中で、イエスに対する二つの反対の反応がどのように展開するかを見ることになります。

応用：

このテキストの真理は、私たちの最大限の理解を超えています。しかし、これらの節にある真理の啓示(1.14,17-18)、恵み(1.14,16)、神の完全性(1.16)、そして神の子となる恵まれた地位(1.12-13)の約束は、確固として信頼できるものです。

この箇所であなたに与えられた約束について、あなたはどのように黙想しますか。

これらの約束において、あなたは何を新たに信じる必要があるでしょうか?

神の息子、あるいは娘としてのあなたのアイデンティティは、あなたがどのような人間であるかを永遠にどのように定義するのでしょうか。

Copyright©2012byJohnWright.Allrightsreserved.